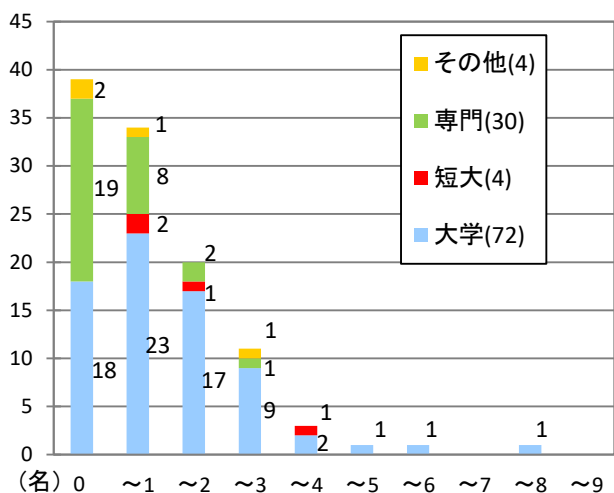


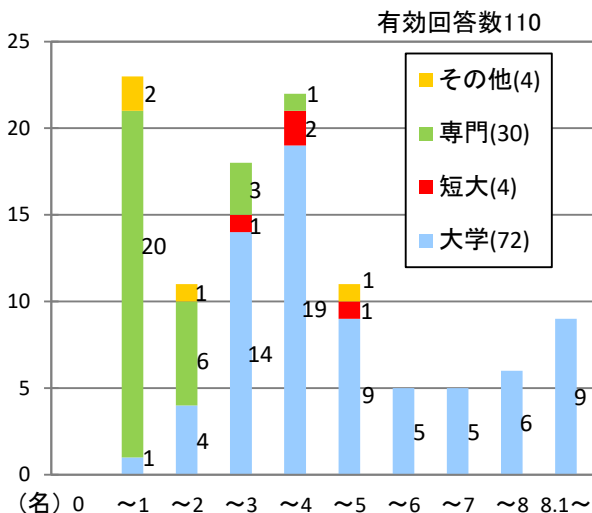
*** グラフでみる実態調査 ***

* 正規職員・専任 *



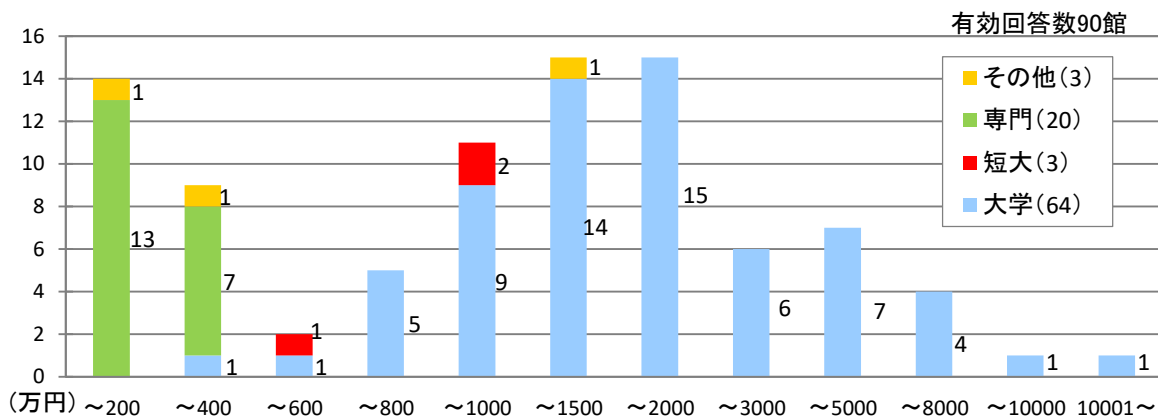
* 専任職員数の平均は、大学1.5名・短大2.0名・専門0.5名・その他1.0名だった。昨年度との比較では、専任職員数は、すべての種別で僅かに減少している。

* 全職員数 *

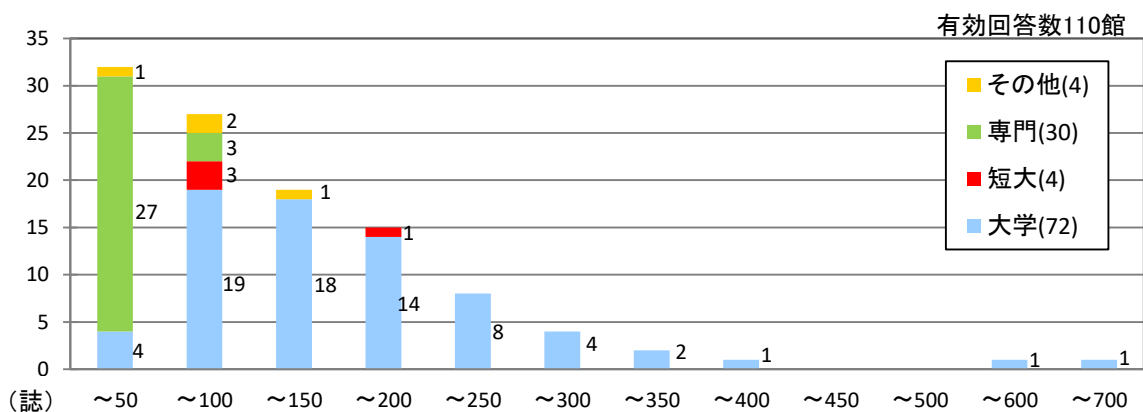


* 全職員数の平均は、大学5.2名・短大4.0名・専門1.5名・その他2.3名だった。昨年度との比較では、全職員数はすべての種別で僅かに減少している。専任職員数も同様に減少しているため、職員全体の雇用の減少傾向がうかがえる。

* 年間資料購入費 *



* 購入雑誌タイトル数 *



* 全体の平均数は、大学158誌・短大103誌・専門39誌・その他82誌であった。平均値をみると、専門とその他は増加しているが、大学、短大は減少している。大学の平均タイトル数は、2009年より減少し続けている。

* 購入雑誌タイトル数平均値 *

年度	2009		2013		2014		2015	
	有効回答数	タイトル数	有効回答数	タイトル数	有効回答数	タイトル数	有効回答数	タイトル数
大学	74	411	78	210	76	198	70	185
短大	10	135	7	117	6	93	3	105
専門	34	124	36	42	31	39	35	41
その他	7	359	6	73	6	65	4	67

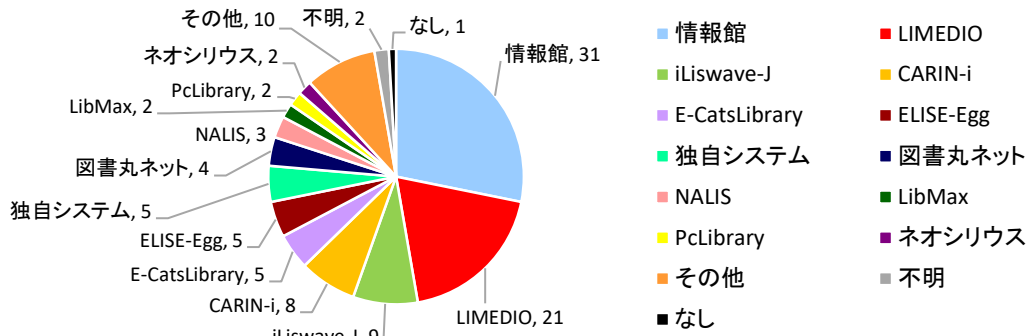
年度	2016		2017		2018	
	有効回答数	タイトル数	有効回答数	タイトル数	有効回答数	タイトル数
大学	68	166	74	160	72	158
短大	5	94	4	104	4	103
専門	30	39	30	36	30	39
その他	4	67	4	66	4	82

* 平均値は小数点以下四捨五入

* 図書館システム *

有効回答数110館

図書館システムは全体の99%にあたる109館(大学72館、短大4館、専門29館、その他4館)が導入している。

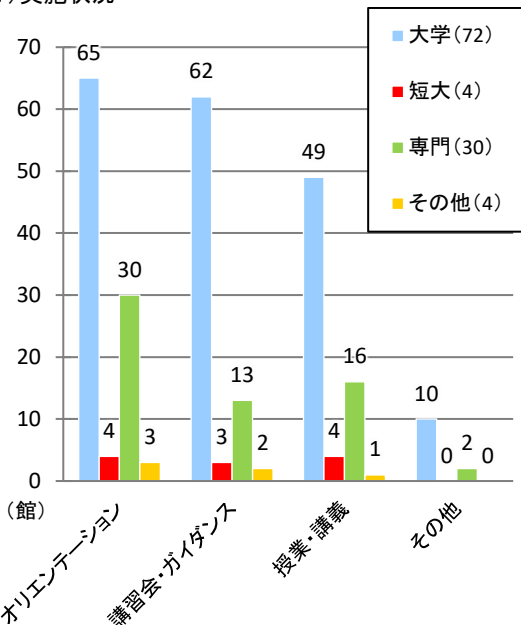


* 上位2つのシステム(情報館、LIMEDIO)で約48%であり、前回調査に比べ割合は減少しているが約半数を占めている。
* 「その他」は1館のみ採用のシステムの合計。「不明」は実績はあるが詳細不明のため導入館に含めている。

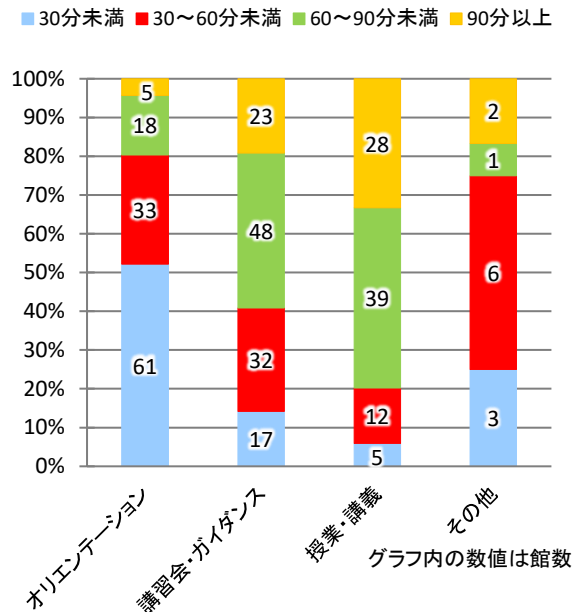
* 利用教育 *

有効回答数110館

(1)実施状況

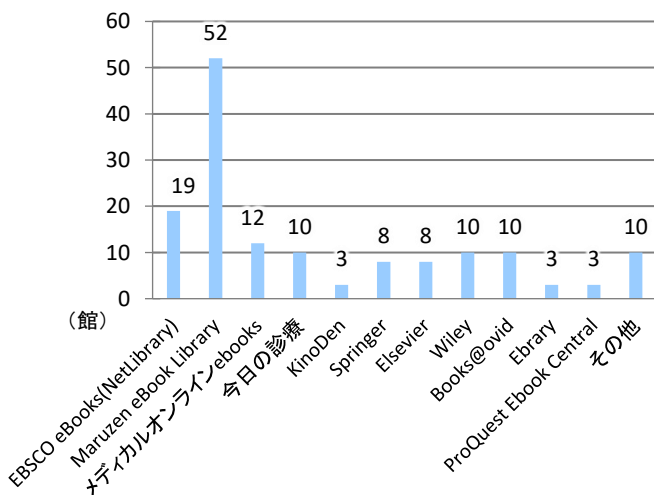


(2)実施時間



* 電子ブック導入状況 *

有効回答数110館



* 「その他」は1館のみ導入しているものの合計である。
* Maruzen eBook Library(52館)、EBSCO eBooks(NetLibrary)(19館)の利用が多い。特にMaruzen eBook Libraryは前回調査から大幅に増加している。
* 館種については、Maruzen eBook Library(専門1館、その他1館)、メディカルオンラインebooks(専門1館)、今日の診療(専門1館)を除き、大学のみであった。

* 相互貸借 *

有効回答数(2018年度)

	大学	短大	専門	その他	
2012年	79	8	31	6	124
2014年	76	6	31	6	119
2016年	68	5	30	4	107
2018年	72	4	30	4	110

有効回答数:110館
相互貸借(複写)は、大学、短大、その他の機関すべてで行われており、専門学校では18館(60%)に実績があった。依頼、受付ともに減少傾向であり、特に大学では顕著である。

2018年度実施館数(平均値は小数点以下四捨五入)

実施館数	大学		短大		看専		その他	
	総数	平均値	総数	平均値	総数	平均値	総数	平均値
	72		4		23		4	
依頼	30893	429	266	67	878	38	123	31
受付	30458	423	171	43	55	2	472	118

複写依頼(平均)

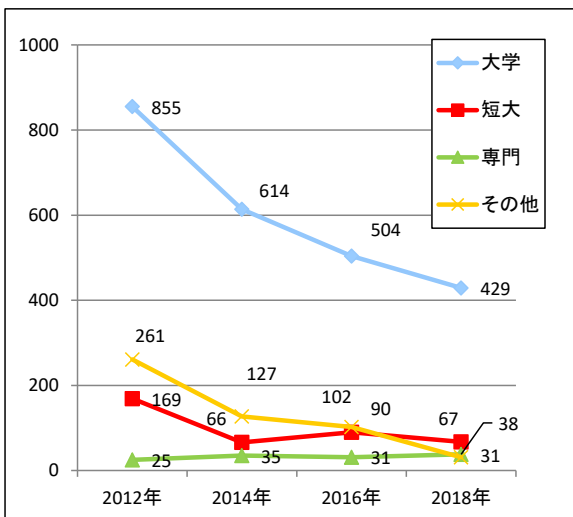
	大学	短大	専門	その他
2012年	855	169	25	261
2014年	614	66	35	127
2016年	504	90	31	102
2018年	429	67	38	31

複写受付(平均)

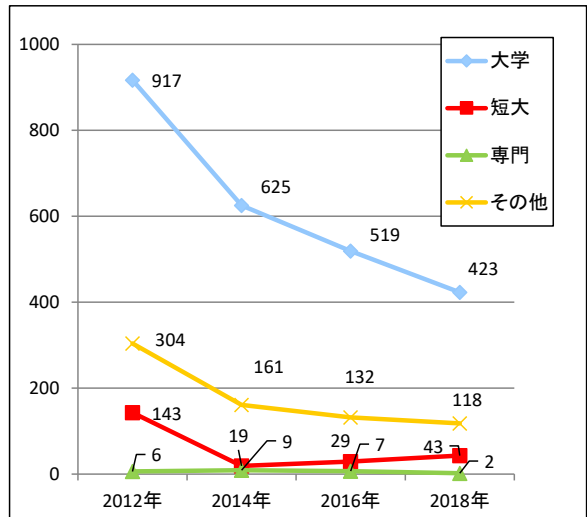
	大学	短大	専門	その他
2012年	917	143	6	304
2014年	625	19	9	161
2016年	519	29	7	132
2018年	423	43	2	118

*2012年、2014年、2016年のデータは2017年度実態調査報告による

【複写依頼(平均)】



【複写受付(平均)】



* ラーニングコモンズの設置状況 *

(単位:校)

設置数	設置率	設置校の席数の規模								
		0~20席	~40席	~60席	~80席	~100席	~150席	~200席	~300席	無回答
39校	35%	10	8	5	6	1	3	0	3	3

※ 110校中「設置」との回答があったのは、大学38校、専門1校

電子ジャーナル・データベース導入状況

(全体の動向 2018年度)

	対象館数	(1)二次資料DB利用	(2)EJ導入
大学	72	71	98.6%
短大	4	4	100.0%
専門	30	27	90.0%
その他	4	4	100.0%
合計	110	106	96.4%

(有効回答数)110館
 二次資料データベースは、有効回答(110館)の98%にあたる106館(大学71館、短大4館、専門27館、その他4館)が導入している。
 電子ジャーナルは、74館(大学70館、専門3館、その他1館)が導入している。
 (これらの結果には、大学等・本館などの予算で購入されているものを含む)

このワークシートには、以下の図表とコメントがあります。

- 全体の動向(表、コメントあり)
- 国内の状況(自由回答分を一括にしたもの)(図表、コメントあり)
- 国外の状況(自由回答分を一括にしたもの)(図表、コメントあり)
- 国外の状況:特に多く導入されたもの(図表のみ)
 (上位10種を個別に、下位10種と自由回答(25種)をまとめたもの)

(国外の状況 2018年度)

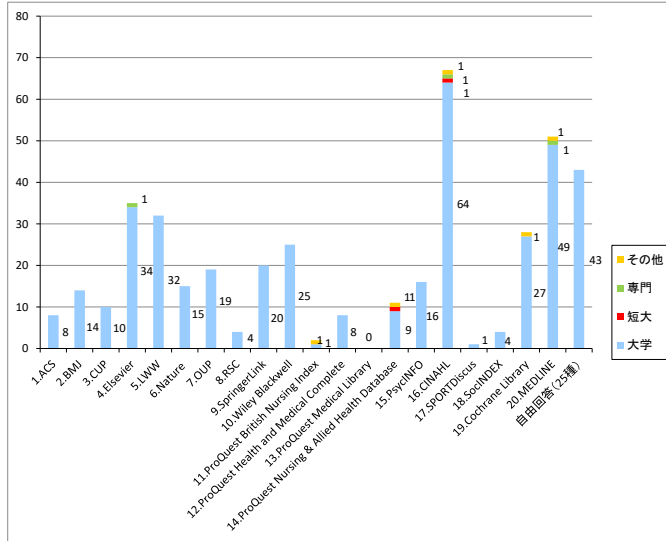
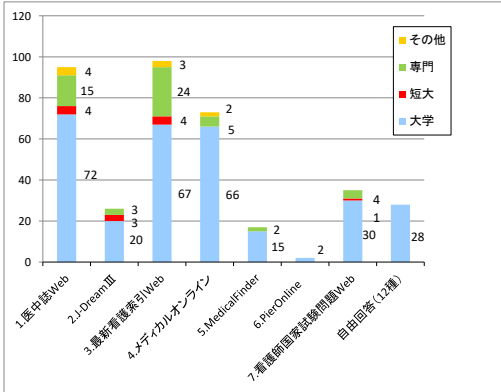
名称	大学	短大	専門	その他	件数
1.ACS	8	0	0	0	8
2.BMJ	14	0	0	0	14
3.CUP	10	0	0	0	10
4.Elsevier	34	0	1	0	35
5.LWW	32	0	0	0	32
6.Nature	15	0	0	0	15
7.OUP	19	0	0	0	19
8.RSC	4	0	0	0	4
9.SpringerLink	20	0	0	0	20
10.Wiley Blackwell	25	0	0	0	25
11.ProQuest British Nursing Index	1	0	0	1	2
12.ProQuest Health and Medical Complete	8	0	0	0	8
13.ProQuest Medical Library	0	0	0	0	0
14.ProQuest Nursing & Allied Health Database	9	1	0	1	11
15.PsycINFO	16	0	0	0	16
16.CINAHL	64	1	1	1	67
17.SPORTDiscus	1	0	0	0	1
18.SocINDEX	4	0	0	0	4
19.Cochrane Library	27	0	0	1	28
20.MEDLINE	49	0	1	1	51
自由回答(25種)	43	0	0	0	43
総計					413

国外で多く導入されていたのは、CINAHL(67館)とMEDLINE(51館)であった。
 電子ジャーナルの購入にあたり、コメントではパッケージ全体ではなく、一部の雑誌のみを購読しているという記述が複数あった。
 自由回答では25種類が挙げられ、うち15種類は1館のみの導入である。
 自由回答で導入が多かったのは“Sage”(5館)であった。

(国内の状況 2018年度)

名称	大学	短大	専門	その他	件数
1.医中誌Web	72	4	15	4	95
2.J-Dream III	20	3	3	0	26
3.最新看護索引Web	67	4	24	3	98
4.メディカルオンライン	66	0	5	2	73
5.MedicalFinder	15	0	2	0	17
6.PierOnline	2	0	0	0	2
7.看護師国家試験問題Web	30	1	4	0	35
自由回答(12種)	28	0	0	0	28
総計					374

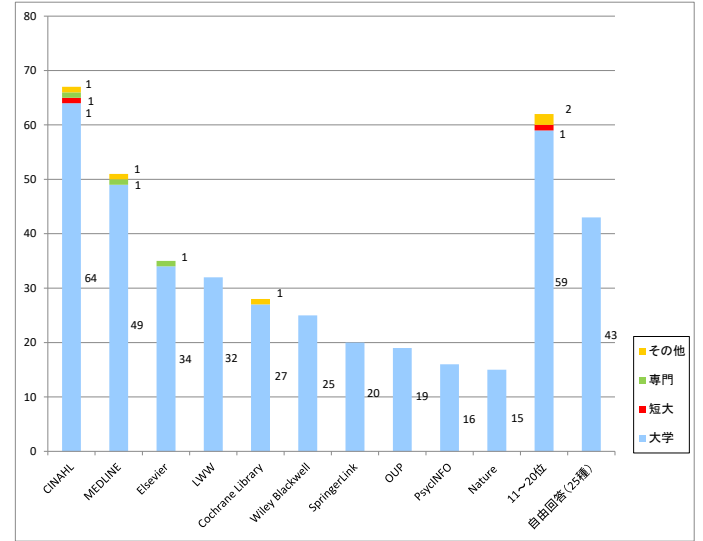
国内では、最新看護索引web(98館)と医中誌Web(95館)、メディカルオンライン(73館)の導入が多い。大学、その他では医中誌Webが、専門学校では最新看護索引webが、短大では医中誌Webと最新看護索引webが最も多く導入されている。
 自由回答には12種類が挙げられ、導入が最も多かったのは聞蔵II(10館)であった。



(国外の状況:特に多く導入されたもの 2018年度)

名称	大学	短大	専門	その他	件数
CINAHL	64	1	1	1	67
MEDLINE	49	0	1	1	51
Elsevier	34	0	1	0	35
LWW	32	0	0	0	32
Cochrane Library	27	0	0	1	28
Wiley Blackwell	25	0	0	0	25
SpringerLink	20	0	0	0	20
OUP	19	0	0	0	19
PsycINFO	16	0	0	0	16
Nature	15	0	0	0	15
11~20位	59	1	0	2	62
自由回答(25種)	43	0	0	0	43
(11~20位の詳細)					
BMJ	14	0	0	0	14
ProQuest Nursing & Allied Health Database	9	1	0	1	11
CUP	10	0	0	0	10
ACS	8	0	0	0	8
ProQuest Health and Medical Complete	8	0	0	0	8
RSC	4	0	0	0	4
SocINDEX	4	0	0	0	4
ProQuest British Nursing Index	1	0	0	1	2
SportDiscus	1	0	0	0	1
ProQuest Medical Library	0	0	0	0	0
自由回答(25種)	43	0	0	0	43

(総計) 413



23. 図書・雑誌等資料の保存スペースを確保するために取り組んでいること

取り組みの記入があった館数：

大学・短大：31 館， 専門学校・その他：15 館

記述をそのまま転記した。

【大学・短大】

1	毎年除籍作業をしている。除籍対象図書は、重複図書で受入より 20 年経過したものは 1 冊、していないものは 2 冊保存。改版された図書は 1 冊保存。その他、利用価値を失ったもの（パソコン操作マニュアルなど）。WEB 公開している雑誌の購読を中止した。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンアクセスになっている雑誌や紀要の購読中止及び電子ジャーナルで購読契約している冊子の購読中止 ・除却基準に基づく図書や製本雑誌の除却
3	内規に沿った除籍資料案を委員会で諮り除籍を行っている。
4	教員に各専門分野の図書について不用な本を照会し除籍している。
5	定期的な廃棄を行う。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・重要度の低い（利用頻度等のデータをもとに図書館運営委員会と教員が判定）洋雑誌の購読停止 ・冊子体洋雑誌の購読契約を、電子ジャーナル利用契約へ切り替え ・オープンアクセス化した紀要の受入停止と除籍 ・オープンアクセス化した冊子体和雑誌の購読停止（タイトル毎に図書館運営委員会が判定） ・雑誌の保存年限見直し（例：看護学生向け学習雑誌の保存年限を短縮 10 年→5 年） ・洋雑誌の古い巻号・電子化した巻号を、図書館外の空き部屋へ移動 ・図書の旧版複本を中心とした除籍と、複本購入の抑制
7	古い図書の除却、看護・医学関係以外の図書の除却・他キャンパスへの移管。
8	複本の除籍
9	電子版のバックファイルを購入し、当該冊子体を廃棄してきたため、現在は解消しています。
10	・除籍要綱に基づき除籍している。具体的には、所蔵している資料の 5 版以上重ねた資料のうち直近から 2 版を除いた複本を除籍。
11	毎年多くの資料を除籍している。
12	書庫の重複図書を今年度中に除籍予定。

13
1. 除籍方針の策定 図書館運営委員会にて学科の意見を取り上げながら、大学全体で検討中 2. 書庫新規設置要望
14
現状は処分でスペースを確保するしかできない。
15
教員に協力してもらい保存図書選定を実施している。
16
除籍基準で分野ごとの保存年限を定めている。(例外あり) (例)看護学分野の図書は最新版と1つ前の版を保存し、それより古い版は除籍。 医学書およびその他の分野は最新版のみ保存。 改版されないものは分野ごとの保存年限に則って除籍
17
紀要類は定期的に電子化の状況を確認し、電子化されたものについては5年間保存の後に廃棄している。
18
図書については、受入から一定年数が経過し貸出利用が少ない資料の開架書庫への移動、除籍(学内他キャンパスへの移管も含む)を不定期に行っている。雑誌については、J-Stage や機関リポジトリなどオンライン(フリー)で利用できるものから、選択的に購読・受入の中止を始めている。
19
電子版(電子ジャーナル)へのアクセスによって提供できる資料については、冊子物を廃棄することで書架スペースの確保を行っている。
20
他大学の紀要については、5年で除籍している。
21
・図書については、除籍基準により内容が古く誤りがあるもの、改版がでたものや問題集などを年に1度除籍しています。
22
除籍を積極的に行っている。
23
書庫(閉架)の不要図書(過去の国試問題集など)の廃棄検討と廃棄基準の策定
24
新版を受け入れたら、旧版を開架書庫から閉架書庫に移動する。現在のところ保存スペースが確保できなくて困っているということはないが、将来を見据えて、図書を除籍細則に基づいて、除籍できる体制を整えている。
25
書庫の棚増設、Web 無料公開のある寄贈雑誌の受け入れ中止
26
○逐次刊行物の保存期間短縮の検討 ○自然科学系・情報科学系の内容が古いものについての除籍・廃棄の実施 ○重複資料の除籍・廃棄の実施

27	現在は、未データ化の資料の遡及を行っており、電子化ができていない閉架書架の中の電子データ化を推進している。それにより、汚損・破損資料も含め利用価値を鑑みて、除籍候補とすると共に、別途保管庫を準備してもらったため、除籍予定となる可能性のある資料を図書館内から搬出することにより、書架の狭隘化に取り組んでいる。但し、搬出資料はOPAC公開すると共に別室で保管するに当たり、周密書庫を参考に保管箱をナンバリングし、要望があれば取り出せるように棚に並べることで整理している。全て除籍時期待ちの資料としている。
28	複本がある古い資料を除籍している。
29	図書については、一定年数を経過して資料価値が下がったものや複本が多数あるものの除籍を毎年行っている。 逐次刊行物については、保存年限を定めているもののみ毎年廃棄処分を行っている。
30	蔵書点検による所蔵資料の除籍。
31	図書館内の書庫とは別に、空き倉庫を保管場所として利用している。

【専門学校・その他】

1	除籍基準に基づき、除籍している。
2	治療薬マニュアル等、国家試験問題集、白書、製本雑誌は、発行から3～10年で廃棄している。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書点検後、廃棄本を選別し希望の学生、教員に配布 ・版が変わった教科書は隣接する病院図書室に寄贈
4	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の除籍、古い年度の雑誌の処分を定期的実施 ・日頃から資料保存スペースが不足していることを周囲へ伝えておき、構内に空きスペースが出た時は、図書室で確保できないか交渉する ・条件(安定性、価格面等)が良ければ、購読雑誌を冊子体から電子ジャーナルに切り替える
5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保存年限を設けている (雑誌は10年、年鑑・白書・年報類・医薬品事典は5年、国家試験過去問・法規類は3年、教科書は2版前) 2. 年2回除籍を行っている。 3. 除籍後、一部資料は教員・関連病院にリサイクルを行っている。 4. 永年保存資料のうち利用がほぼない資料は書庫内でオリコンに入れて保管している。

6	<ul style="list-style-type: none"> ・雑誌はほとんどが未製本だが、未製本雑誌については20年をめどに廃棄（学生向けは15年）している。 ・原則として、新版を受け入れたら旧版を除籍している。 ・専門書は発行後20年をめどに、教員が甚だしく時代遅れと判断したものを除籍している（すべてではない）。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・雑誌については、永年保存対象誌以外は保存期限を10年と定め、1年に1度重複雑誌交換事業にリストを提出後、廃棄している。 ・雑誌製本も以前は全資料対象だったが、永年保存分のみ継続し、それ以外は原紙での保存に変更し廃止した。
8	<p>図書等の除籍及び廃棄要領に基づき、年に2回資料の除籍及び廃棄を行っている。</p>
9	<p>資料の保存期間(永年・20年・10年)を定め、定期的に資料整理と除籍・廃棄を行っている。図書(永年・20年・10年)；製本雑誌(永年・20年)；雑誌(永年・10年)。</p>
10	<p>バックナンバーの古いものは、教務室へ移動させる予定。</p>
11	<p>図書室が狭いため保管スペースが極端に少ない。そのため、毎年、500冊～1000冊程度を除籍して保管スペースを確保している。</p>
12	<p>新着図書が増えてくると書架に入れるスペースがなくなるので、古くなったり、所蔵の必要なくなった資料を集めて教員にも確認してもらいながら除籍をしている。</p>
13	<p>除籍基準を設けており、時間のある時に少しずつ書架をチェックし、除籍候補リストを蓄積するようにしています。年に一度大きく除籍します。</p>
14	<p>年に一度、除籍処理を実施 書架の増設（H19年10月に開架書棚、H22年6月に開架書棚、H25年8月に移動書庫1列、H26年8月に開架書棚） 開架書棚および移動書庫用棚板の増設（H27年10月） ブックトラック2台購入（H29年1月）</p>
15	<p>図書・雑誌別に除籍基準を設け、基準に沿って毎年除籍を行っている。</p>